# 人を助けるための税

常翔啓光学園中学校３年　　糸満　くらら

私には三十七日間生きた姉がいます。私は会ったことがないので、これは両親から聞いた話です。

私の姉は二〇〇五年一月十三日に誕生しました。定期健診で異常が見つかり、予定より早く帝王切開で生まれたそうです。生後十九日の時点で見つかっていた病気は、心臓病や心不全など八個で、この症状はなんと十万人に一人という確率なのだそうです。もし、完治させるなら、アメリカの病院に行くしか方法がなかったそうです。しかし、生後まもない姉には無理だと断念し、日本でできるかぎりの治療をすると決意しました。姉はたくさんの治療や手術をくり返しましたが残念ながら、一カ月少しで亡くなってしまいました。でも、母は

「お姉ちゃんはたくさんの人に何度も助けられて、見守られて幸せそうやったよ。」

と言っていました。今回、税の作文を書こうと考えていると、姉はもしかしたら周りの人だけでなく、国民全員に支えられていたのではないかと思いました。前に母が言っていた「うちは、お姉ちゃんの何百、何千万の医療費をみんなが税金として払ってくれて助けてもらってんで。だから、感謝をして税金を払わないとあかんよ。」

という言葉を思い出しました。やはり、姉はもっとたくさんの人に支えられていたのです。

今回これを書くにあたり、医療に関する税について少し調べてみました。なんと健康医療費・福祉費に一年間に使っている額は、六千億以上だったのです。私の住んでいる大阪の制度では、十八歳以下は一医療機関ごと、一日当たりの自己負担額は最大五百円で良いというものがありました。さらに三回目以降の自己負担はありません。この助成金は税金から出ていて、みんなが支え合って成り立っているものだと分かりました。思い返してみると、しっかりと税金の使い道について考えたことがないと気付きました。

私は正直、税金ってなんかめんどくさいなと思ってしまっていました。だけど、姉のように苦しんでいる人を、私が出しているほんの少しのお金で助けられているのかもしれないと思うと、少しうれしくなりました。私は今まで人の役に立ったと思えることがあまりなかったので、もしこれで少しでも誰かの役に立てていたらいいなと思います。人それぞれ、税に関して色々な意見があると思います。私は、少しでも誰かのためになっているかもしれないと思い、気持ちよく税を払うことのできる人が増えたら、良い社会になるのではないかと思います。